

## 「一人職」のH養護教諭

「一人職」という言葉があります。生徒のみなさんは聞いたことないですよ。一つの組織に、たった一人しかいない立場の人を指します。学校でいうとだれだと思えますか。「校長」も一人ですが、私がないときには教頭が代わりをやりますので、「一人職」とは言いませんね。とすると、一体だれでしょうね。その人がいなくなると、代わる人がいないというポジションです。

事務の先生と保健室の先生です。この二人はいなくなると、だれもその代わりをやることはできません。学校の中では特別な役割を担っています。その中で今日は保健室のH養護教諭について書きますね。

彼女は今、他の職員以上にあることに一生懸命です。それは何かわかりますか。そうです。コロナウイルス感染者を学校から一人も出さないようにすることです。身体や健康について、北中の中では最も知識があり、意識も高いのが彼女です。

消毒の研修会に参加し、ウイルスを校内に入らせないためにはどのようなしたらよいかを彼女は学んできました。そしてそれを全職員に教え、消毒のやり方を指示しました。このときばかりは、校長の私も彼女の生徒です。私も彼女の言うとおりに、毎日校長室の消毒に取り組んでいますよ。

医療従事者は皆そうですが、ウイルスに最も感染する可能性が高いのは北中と言うと養護教諭かもしれません。皆さんは体調が悪いと保健室に行きますよね。インフルエンザウイルスに感染した場合も、みなさんは保健室で迎えを待ちますよね。そうしたときに、保健室で寄り添ってくれるのが養護教諭です。

でも、彼女は当たり前のように、元気で養護教諭の務めを果たしています。休むことなく、いつも皆の健康状態を見届けています。このことは当たり前前に考えてはいけません。休んだら自分の代わりはいないという高い意識があるからこそ、彼女は自己管理に万全を期しているのだと私は思います。

「一人職」は代わりがない分、人一倍高い意識で臨まなければなりません。このことは、休校が空けてからの組織決めで参考にしてください。ね。

(四月十七日 記)